

## 会 議 録

会議の名称	豊中市市民公益活動推進委員会 地域自治推進部会		
開催日時	令和 5 年（2023 年）2 月 14 日（火）13 時 00 分～15 時 00 分		
開催場所	市役所第一庁舎 2 階 大会議室 (WEB 会議)	公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可
事務局	市民協働部 コミュニティ政策課	傍聴者数	0 人
公開しなかった理由			
出席者	委員	関部会長、佐藤委員、大濱委員、高原委員	
	事務局	高橋部長、水谷課長、大和課長補佐、小嶋課長補佐、北田係長、黒岡主事、中村、澤	
	その他		
議題	1 今後の取組み（案）について 2 その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

# 令和4年度（2022年度）豊中市市民公益活動推進委員会

## 第4回 地域自治推進部会 議事概要

日 時 令和5年（2023年）2月14日（火）13時00分～15時00分  
場 所 市役所第一庁舎2階 大会議室（WEB会議）  
出席委員 関、佐藤、大濱、高原（敬称略）

### 1. 開会

開会宣言、会議成立の確認、本日の案件及び資料等の確認。

### 2. 審議等

#### ■案件1 今後の取組み（案）について

資料1～5に基づき事務局から説明。

#### 部会長

本日の部会では、市から諮問されている「豊中市地域自治推進条例に基づく制度の見直し等」に対しての答申に向けて議論したい。事務局から資料5で「今後の取組み（案）」が示されているが、ご質問やご意見があればお願いしたい。

#### 委員

本日議論した内容が3月28日の審議会に報告され、最終的に市の答申につながっていくのか。答申は資料5の今後の取組み（案）の内容で作成されるのか。

#### 事務局

資料5はあくまで答申（案）の基になる資料であり、本日の議論を経て、6月に開催する地域自治推進部会で答申（案）という文書の形でお示しさせていただき予定である。

#### 委員

地域自治推進部会としては、具体的な仕組みの提案まですべきなのか、それとも仕組みの必要性を言う程度にとどめるべきなのか。

#### 事務局

例えば、何万円の補助金制度を新設すべき、といった具体的な提案までは求めていないが、地域自治推進部会の中で議論していただくのは結構である。ただ、答申（案）として文書にする形としては、「このような仕組みを考えた方が良い」という書き方になると思われる。

#### 部会長

資料5「今後の取組み（案）」について、各項目について意見や質問があればお願いしたい。

#### 委員

役員登用における選択肢の範囲が狭いという課題について、性別に左右される部分があるほか、ボランティアの担い手を探す際に職業も考慮する。その理由は、例えば会社員であれば仕事があるので平日昼は活動できず、担い手になるのは困難。市の会議も平日昼に開催されることが多い。最近では専業主婦も少なく、仕事に融通がきく自由業の方も珍しい。となれば、高齢者や仕事を持っていな

い方に頼ることになる。これも役員登用における選択肢の範囲が狭い要因だと思う。

#### 部会長

地域の会議を何曜日のどんな時間帯で開催するか等は各地域に任せているのか。

#### 事務局

地域の会議は皆様で話し合っ調整したうえで設定されていると思う。しかし、全員の希望に沿うのは困難かもしれない。公民分館の会議などはある程度市が日時を設定していると思われる。

#### 委員

取組み（案）は行政が解決すべき内容となっている。「各種団体がそれぞれの事業を実施しているため、それ以上の新たな事業実施が困難」という課題について、各種団体としては、市が柔軟に対応していただけることを答申内容でお願いするしかない。

#### 部会長

地域自治推進部会は豊中市地域自治推進条例に基づく制度の見直し等を諮問されているので、今後行政としてどのような地域コミュニティ、地域自治を展開していくのか議論していきたい。行政が取り組むべきこととして、4点考えられる。1点目が、地域コミュニティの再生・活性化を地域に訴えかけ、新しい人材を発掘するきっかけづくりと相談支援。2点目が、地域自治組織の制度づくり。3点目が、施設・資機材も含めた情報の基盤づくり。4点目が、情報ネットワークの提供や収集。この4点の関わり方について意見をいただきたい。最も解りにくくて大きなテーマが、若い人材や新しい担い手を地域コミュニティにどうやって引き込むのか、どう働きかけるのかである。このテーマは制度的、基盤的、情報ネットワーク的にも課題が多い。

#### 委員

数年前は、豊中市内の公立、私立の高校生が公民分館の行事に参加してもらうため、高校と公民分館の集まりがあったが、いつの間にか無くなった。理由は、学校側が、学生は受験もあるので地域のイベントに頻繁に参加させられないし、また、移動中の交通事故等のリスクを考えると、学校側の負担が大きいということだった。市内のとある高校は地域貢献に積極的で、地域の文化祭に学生が参加している例もある。今そういった学校が少なくなっているので、行政から学校へ働きかけてもらいたい。学生はパワーもアイデアも持っている。

#### 事務局

以前、公民館が地域連携センターを兼務するようになった際、地域連携の一つの起爆剤として、市内の全高校と地域団体をマッチングさせる事業を行った。高校側からすると教育という観点で経験を積ませる思いがあった。しかし、地域からすると自分たちのイベントに音楽バンドなどを呼びたいという思いが前面に出てしまい、あまり噛み合わなかったようである。今一度、高校側と地域団体それぞれのメリット、デメリットを再確認し、地域活動の活性化にもつなげていくような仕掛けとして継続するのも良いと考える。

#### 委員

資料4、大学や高校との連携が興味深い。豊中市内に高校はいくつかあり、学生などの若い人たちは我々に無い発想、アイデアを持っている。学生たちは豊中市の貴重な人材なので、改めて市から学校側へアプローチをしてほしいと思う。

#### 部会長

私の大学の学生も地域に出向いて地域活動をしているが、色々と手間を要する。単純に音楽バンドの出演であれば簡単だが、それで地域愛が生まれるのかといったら疑問がある。学生に話を聞く

と、「地域のために」「社会のために」ということでは動かず、「この人のために」ということなら気持ちも動きやすく、頑張ろうというモチベーションが上がるとのこと。つまり、地域活動を通して誰と知り合うか、顔の見えるきっかけづくりが重要だと思う。学校の先生、大学の教員はそういったきっかけづくりが苦手な人も多いので、中間に行政やNPOが入るような仕組みづくりが必要だと思う。また、地域側としても、外から入ってくる学生たちに対して不信感を持つのではなく、どんなことは任せられるのか、など考えて共有してほしいと思う。今後の地域の人材発掘に必要となってくると思う。

## 委員

私の大学でも、実際に学生を地域に連れていく教員は少ない。大学としてもそこまで協力体制が整っているわけではない。そんな事情も含め、部会長が言った4つの切り口は行政課題だと思う。資料5に記載されている課題は、活動する市民の実態から見た課題で、それを受けて行政の課題は何かを考え直す必要がある。その考え直す課題というのが4つの切り口である。中でも私はきっかけづくりが最も重要だと思う。10年経過して地域自治組織の数が増えていないことを鑑みると、制度よりも、まず地域で意識が高まっていないこと、認知が高まっていないことを考えなければならない。高校などの学校が入ってくると、地域の色々な団体が一緒に考えようというきっかけづくりになり、役割を果たすと思う。もう少し普遍的なきっかけづくりが、地域自治組織とは別のものとして存在し、その中から発展的に地域自治組織に移行する地域もあるということが必要だと思う。昔であれば、地域が自分たちのコミュニティカルテを作成、公表して、自分の地域の強みや弱みを地域住民が知り、検討を始めるということを実施していた。住民が自分の地域の課題を認識し、地域を見直す動機づけとなり、そこで各種団体が一緒に話をすることが必要だと思う。担い手不足や既存団体の関係性といった課題は、最終的に個人のモチベーションの有無や機運の高まりと切り離せない。ゆえに、今ある制度をどうするかの前に、全体的な底上げが必要だと思う。それには、地域自治組織の普及啓発や、団体どうしが協力した成功事例を積み上げていって、そこから地域自治組織形成につながったという流れが望ましい。最初に組織をつくることからスタートする方法は難しいと思う。まず市全体でベーシックな課題認識をやってみれば、反応する地域もあると思う。

## 部会長

コミュニティカルテにはどのような項目が必要になるだろうか。

## 委員

以前、神戸市などでは公害や防災などのネガティブ情報が共有されていた。現在、生駒市では、住民の関心が高い地区でミライ会議というワークショップを開催している。そこでは、行政、テーマ型、地縁型それぞれの団体が集まり、地区の将来人口や高齢化率等を市が示した上で自分の住んでいる街の将来像や課題を考えてもらっている。このような取組みも必要であると思う。

## 部会長

豊中市では地域資源などを集約したコミュニティカルテ等はあるか。

## 事務局

豊中市にも小学校区ごとの情報を集約した「校區別データベース」がある。ただ、校區別データベースは、市職員が地域へ出向く前に、地域のことを理解する目的でつくられたものであり、市民向けには公開していない。公開するためにはデータの精査が必要となっている。

## 委員

校區別データベースをつくる際に、市民に公開した方が良いという議論もあったと記憶している。

住民が自分の住んでいる地域を知らなければ、機運は高まらないと思う。地域自治組織に向けた準備段階になると街歩きや住民アンケートが行われるが、その前段階だと地域を知る機会が少ない。公民館かコミュニティ政策課か、行政のどこかの部署が、住民が地域を知るためのキャンペーン等の事業を実施するのも良いかもしれない。新たな人材が見つかり、担い手不足がある程度緩和されるかもしれない。既存団体の関係性も強まる可能性がある。

#### 部会長

住民が地域を知り、少しでも関心を持つためのきっかけ作りが重要だという意見をいただいた。実際地域活動を行っている方々としては、どのように感じているだろうか。

#### 委員

各団体がそれぞれ活動しているので、改めて地域を知るという機会は少ない。人材育成とは、現時点の人材をどうするのかではなく、子どもたちを次世代の地域の担い手として育てるという、長い目で見る必要がある。福井県のある市へ視察に行ったが、そこでは各小学校に地域住民が利用できる館がある。豊中市には公民分館という館は無いため、小学校の一部を使っているのだが、セキュリティをその都度解除して出入りするなど不便を少し感じる。福井では館を利用して、子どもたちに祭りを主催させたり、農業のようなことをさせたりし、一大イベントとして盛り上がった。子どもと大人が集まれる場所があるのは素晴らしいと思った。子どもと大人が常日頃から一緒に何かできるような体制があると良い。子どもの時から地域活動に参加していると、その子が大人になって親になった時に、自分の子どもと一緒に地域活動に参加するだろう。豊中市でも制度として取り入れられることがあると良いと感じる。

#### 部会長

豊中市では館の建設などハード面の整備は難しいかもしれないが、ポイントはイベントの時だけではなく、日頃から顔を合わせられるような場所があると良い。施設などの場所が無いから機会が無いのか、場所が無くても機会をつくれるのか、どう思われるか。

#### 委員

豊中市の制度である「子ども教室」も体育館を利用するが、他の団体も体育館を利用するので、毎日使えない。やはり豊中市では場所が無い。

#### 部会長

学校の空き教室を地域団体が利用するケースがあると思う。やはりセキュリティや管理上の問題が付随するものの、他市では地域住民が比較的自由に出入りできる雰囲気がある。学校と地域の信頼関係をどう構築するかが重要であると思う。いずれにせよ、日頃から顔の見える関係性が重要である。もう一つは、今ある人材をどう取り込むかの議論が重要である。学生以外にも、地域には事業者という資源もある。事業者とはどのように連携できるだろうか。

#### 委員

奈良市では、今年度、一部の公園を活用し「トライアルサウンディング」を実施している。手続きをすれば飲食店などが販売できるイベントを開催したり、地元の企業がセミナーを開催したり、大学生が多世代交流のイベントを開催したり、多様な主体が公的な公園という場所を利用できるような取組みを試行している。それによって、公園の利用が促進され、地域のつながりづくりや活性化等に貢献する活動が生まれていくことが期待されている。

#### 部会長

公園以外で、地域活動や地域のつながりづくりに使えるような場所などはあるだろうか。

## 委員

図書館をもっと有効活用できないだろうか。図書館は公民館や福祉施設と併設されていることが多いので、各施設の利用者の地域住民を巻き込んで活用できると思う。先ほど意見も出たが、個人のモチベーションともリンクする話であると思う。私自身も、出かけない日は何かリベラルアーツのその日一日のテーマを決め、丸一日かけて学んだりするよう努力している。アンテナを張ることによって物事への反応ができる。小学生、中学生、高校生では難しいが、大学生になると自分のしたいことを考えられるようになるので、大学生とうまくリンクできるように、行政からアプローチしていただきたいと思う。

## 部会長

現時点で地域活動を行っている人が、人材を確保するという点で大学生や事業者など地域の資源を新たに提供したり、仕組みを考えたりすることは可能だろうか。

## 委員

ふれあい緑地では色々な事業者が年 1 回大きなイベントを開催している。最近服部緑地でも子ども向けのイベントを見かける。せっかく公園という良い場所があるので、地域貢献のための利用の場合には利用料を安くするなど、使い勝手を良くしていただきたい。利用するにはどのような手続きが必要なのか。

## 事務局

市が主催または共催として関わるイベントでなければ、基本的には公園を利用できないと思われる。利用希望団体が公園所管課に直接利用申込するのではなく、そのイベントに関係する部署が間に入って利用申込をすることになると思われる。公益的な目的のためであれば、利用料も減免されるはずである

## 部会長

現状としては、少なからず市のどこかの部署とつながりのある団体しか利用できないことになっているので、それをどのようにしてもっと多くの団体が利用できるように広げていくのが課題である。公園や図書館など、場所としての地域の資源が、もっと幅広く活用されるような仕組みが必要になってくると感じる。色々な人をイベントに巻き込む場所、仕組みづくりを考えるうえで、何かヒントやポイントはあるだろうか。

## 委員

地域の人々が集まれるようなテーブルや、きっかけづくりが必要だと思われる。校区福祉委員会のように校区全域にある組織が動けば全市一斉に進むと思われるが、それが難しいのならば、各校区のキーパーソンが呼びかけて、多くの人を巻き込んでいく形になるのだと思う。

## 部会長

制度や仕組みづくりも重要であり、同時に個人的なつながりや、市役所内のネットワークによって、大学生が地域活動へ参加することにつながる例もある。

## 委員

市長が地域の要望を直接聞くタウンミーティングがあれば、住民はとても興味を持つと思う。市長と直接会話したいという人は多い。そういう機会があれば、自分の住む地域の課題は何かを真剣に考えるきっかけになると思う。

## 部会長

モチベーションを上げ、関心を深めるために、他にも何か方法は無いだろうか。

## 事務局

市長が各校区を回らせていただく以外には、市職員が地域に出向き、地域住民の話を聞き、コミュニケーションを取ることが重要だと考える。コミュニティ政策課だけでなく、各部局の職員も地域に入っていくことが必要だと考えている。

## 部会長

担い手不足という課題について議論が進んでいるが、それ以外の課題についても何か意見や気付いた点等あればお願いしたい。

## 委員

コミュニティ政策課が発行している、すごろく形式で説明されている地域自治組織のパンフレットは、優秀で理想的な組織設立のルートが示されている。もう少しハードルを下げたパターンも必要だと思う。例えば、地域のホームページのみ作成したり、広報誌のみ発行したりする形を認めるなど。ただし補助金は少額とする。初動コースがうまくいけば、地域自治組織設立に向けた本コースにチャレンジできるといった仕組みが必要だと思う。出前講座で地域自治組織の説明を市へ依頼した場合、設立を前提とした説明になるので、地域住民はプレッシャーを感じると思う。まずは地域の情報提供手段を確立するといった比較的簡単なことから始められるコースが必要だと感じる。

## 部会長

まずは地域の機運を醸成するための低いハードルのサポートが必要だという意見をいただいた。他に必要だと感じるサポートはあるだろうか。

## 委員

地域自治組織への交付金は、事務作業の外部委託にも適用できるが、実際にどのような作業を委託できるのか、具体例なメリットを示していただけると、地域自治組織の認知度や理解が広がると思う。

## 部会長

本日の議論について、私と事務局で整理し、取りまとめさせていただきたい。

～ 異議なし ～

## ■案件2 その他

- ・令和5年度の組織改正について

資料6に基づき事務局から説明。

- ・事務連絡

第5回市民公益活動推進委員会

令和5年3月28日（火）14時00分から開催

## 3. 閉会